



2021年2月16日

各位

東京都杉並区西荻北二丁目1番11号
株式会社三栄建築設計
代表取締役専務 小池 学

(コード番号:3228 東証第一部)

問合せ先： 取締役管理本部長 吉川 和男

電話番号： 03-5381-3228 (代表)

木造分譲住宅における国産材活用の推進

当社グループは、2015年に国連で採択された持続可能な開発目標「SDGs (Sustainable Development Goals)」の課題解決を重要な経営課題と捉えており、様々な取り組みを実施しております。

特に林野庁で掲げられている「我が国の森林の循環利用とSDGsとの関係」においては、当社グループの主力事業である「木造住宅等」で大きく貢献できると考え、下記のとおり今後積極的に取り組んでまいります。

記

国内の森林はコスト面や人材不足の面から、国内木造建築物への使用は進んでおらず、ほぼコストの安い輸入材に頼っている状況にあります。したがって、国内森林は樹齢の高い状態で管理も行き届かず、結果CO2の吸収力は弱く、保水力も減少しているため大雨などの災害時に鉄砲水などを発生させる原因となっております。

この問題を解決するには、積極的に国産材を使用し、適切な伐採と植林のサイクルをつくり出さなければなりません。

当社グループは、主力事業である「分譲住宅を中心とした木造戸建分譲」を自社設計・自社施工にて年間約2,600棟(分譲住宅・分譲アパート・注文住宅)を生産・供給しており、現時点では使用木材のほとんどが輸入材(1棟当たり約75%が輸入材)でありました。

しかしながら、当社グループでSDGs推進を図るべく、国産材使用割合100%実現を目指す取り組みを実施致します。この度テストケースとして東京都府中市の分譲住宅(1棟)にて、国産材使用割合97.4%を実現致しました(延べ床面積29.8坪で試算)。

木材を多く使用する建築業界において国産材使用割合を高めることは、様々な点で環境改善に貢献することとなり、SDGsに貢献できる活動となります。当社グループにおきましては、今後着工する全ての木造住宅等において、まずは国産材使用割合90%を基準として生産を開始し、最終的には使用割合100%を達成してまいります。

以上

(ご参考)

当社 HP <https://san-a.com/>

当社の SDGs への取組 <https://san-a.com/csr/sdgs/>

林野庁 HP <https://www.rinya.maff.go.jp/index.html>

我が国の森林の循環利用とSDGsとの関係

- 森林そのものが様々なSDGsに貢献。さらに森林資源・森林空間の利用を通じ、様々なSDGsに貢献。
- これらの利用は、林業・木材産業を通じ、森林の整備・保全に還元されるという大きな循環につながっている。



注1：アイコンの下の文言は、期待される主な効果等を記載したものであり、各ゴールの解説ではない。
注2：このほか、ゴール1は森林に依存する人々の極度の貧困の撲滅、ゴール10は森林を利用する権利の保障、ゴール16は持続可能な森林経営を実施するためのガバナンスの枠組みの促進等に関連する。ここに記載していない効果も含め、更にSDGsへの寄与が広がることが期待される。

引用元：林野庁「森林×SDGs」
https://www.rinya.maff.go.jp/j/kikaku/genjo_kadai/SDGs_shinrin.html